

# 「宗像」三百号を迎えて



S. 58. 5. 15. 皇太子殿下・同妃殿下御参拝



毎月十五日発行  
発行所 宗像大社  
〒811-35 福岡県宗像郡玄海町  
電話 0840-62-1811代  
定価 一年送料共 1000円

神具装束  
結婚式場用品  
九州店 福岡市博多区東公園二丁目(千八二)  
本社 京都府京都市中京区錦町(西)三十三番  
電話 075-243-3411  
電話 075-243-3411

## 社報「宗像」三百号に想う

### 十年間の歩み

宮司 葦津嘉之



小野祐宜(現在浅間神社宮司)と相談し、第一号を昭和三十六年一月一日に発行致しました。当時はタブロイド版表裏二頁のさやかな社報でしたが、現在は四頁となり印刷部数も六千部を数え、全国有名神社を始め崇敬者各位、遠くはブラジル、ハワイ、等にも発送している現状です。ここでは昭和五十二年以降の十年間の歩みをふり返って見たいと思います。昭和五十六年三月、出光佐三宗像大社復興期成会々長逝去の訃報は衝撃的悲しみで送りました。又、五十七年五月には、久保名菅宮司が逝去されました。先代の宮司として、よき相談者であった久保名菅宮司の死は、出光会長之死とともに悲しい思い出です。昭和五十七年夏、福岡県庁秘書室を通じて皇太子殿下同妃両殿下、御揃いで社に御参拝の旨、内示を受け感激で身の引き締まる思いでございました。翌昭和五十八年五月十五日両殿下の行啓を仰ぎ、善く奉迎行事を終えることが出来ましたが、当社の歴史上初めてのことであり、御神威の発揚、御由緒に対し無上の光栄と恐懼にたえない次第でありました。

今日号で社報「宗像」も三百号を迎えました。これもひとえに、当大社氏子崇敬者を始め宗像市、郡に關係する皆様方の心かなる深い御支援と御協賛によるものであると厚く御礼を申し上げます。昭和五十二年八月号で二百号を迎え、ご挨拶申し上げましたが、昨



神宝館にて沖ノ島の御説明申し上げる宮司

願ひれば昭和四十六年十一月宗像大社復興期成会々長出光佐三氏により、歴史書でない昭和の大海軍事業が青史に遂行され、其後昭和五十年五月二十日には伊勢皇太神宮の特別の御配慮により別宮二宮の御譲与をいただき永年の懸案であった第二宮、第三宮が完成しました。又昭和五十年十一月八日には、神宝館が完成しました。更に昭和五十六年十月十六日には、靖国神社の御好意により天皇皇后両陛下が行幸啓時に御休所になられた御便殿(御休所)を、出光興産株式会社社長出光昭介氏の奉納により、移築し儀式殿として完成しました。この様に境内の諸設備が立派に整備された中に、両殿下をお迎え申し上げる事が出来ましたことは、誠に御神慮によるものと思えます。楠若葉薫る快晴の五月十五日は、まさに行啓日と致しました。定刻前十時三十分、当社責任役員、特別奉迎者、職員一同が整列御奉迎申し上げる中、皇太子殿下同妃両殿下の御召車が勅使館横馬場道に御到着になり、奉迎者の日の丸の小旗が打ち振られる中、万才の声と拍手が渦巻き、あの感激、溢れ出さぬ涙を胸中に秘め神門前で両殿下を静かにお待ち申し上げた気持は生涯の思い出で御座ります。日常社務の傍、原稿書き写真撮影、カット作り、校正、発送迄よく協力し毎回の責任と忍耐と努力を積み重ねて、三百号を迎えた職員一同、並びに印刷していただいた宗像市田熊、大和印刷の社長以下従業員各位にも深甚なる謝意を表します。今後も全職員一丸となって、益々発展させていきたいと念じておりますので、愛読者各位の御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。





### 宗像大社歌会 俳句作品集(三)

田熊 安部 ゆき  
訪ひくれる人なつかしく花  
ハツ手

津屋崎 西住喜三郎

一羽来て又四五羽鴨輔に來  
ぬ  
田熊 力丸 一郎  
石路の花しぐれて石の艶め  
けり

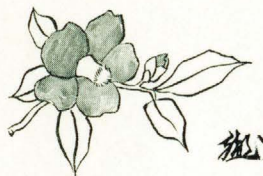
鐘崎 岩瀬 辰夫  
床屋出て襟すじさむし秋  
の道

大井 吉田 杏子  
老ひつげばつまつき易し秋  
の道

津屋崎 井浦 良介  
金策に追われ裏戸の音軋む

藤沢 井上 玄洋  
熟れし実の空に雨をむく石  
榴かな

香椎 板矢クニコ  
引返す程にも降らず秋時雨



### (ご案内)

昭和六十一年(丙寅) ひのえとら

### 正月祭

### 社頭授与品並に 諸祈願祭齋行

昭和六十一年正月に当大社が毎年元旦を期して社頭にて授与している縁起守は、その年の十二支を「くすの木」を材料に用い、伊勢の名匠に特別に製作を依頼して授与されています。  
「えと」「刀彫」は、初穂料 一体二、〇〇〇円です。  
この「えと」「刀彫」は、虎に因む故事成語を挙げ、十二月末に約二〇〇〇を配した日数を、暮盤目型

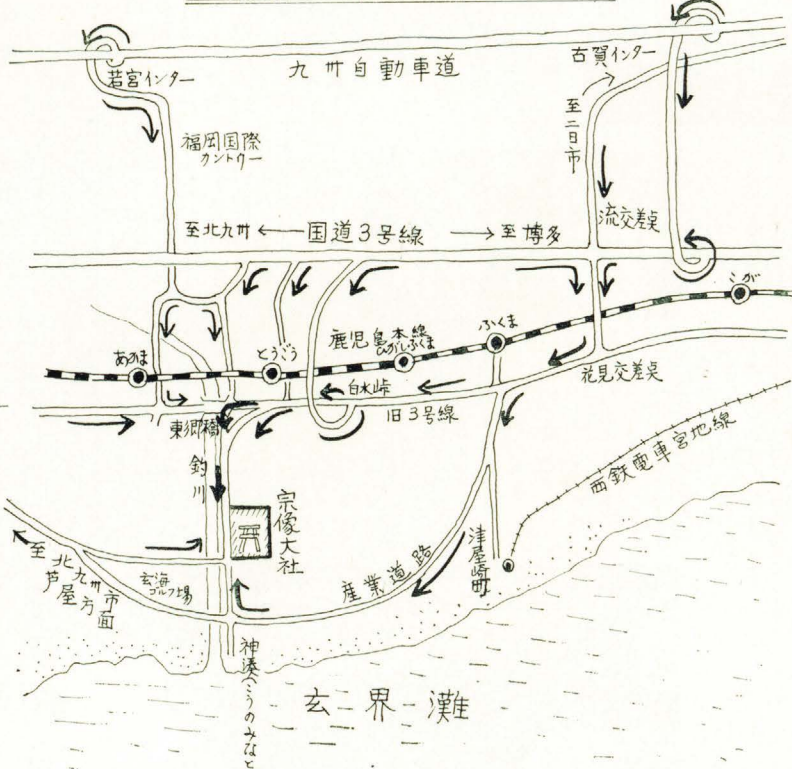
例は、「虎を画きて成らず、なりて狗に類す」などがあります。また、虎相神等虎の名称を冠した神社もありました。これは朝鮮に於て虎が山の神、田の神と視られた信仰が伝わっているからです。  
当社に授与致している「刀彫」についても、十二支全部を揃えたいと願ひ事か叶い縁起が良いと言ひ伝えられ、その「えと」歳「生れ」の年男・年女の方々が「一年の「祭り暦」は当社で行われている年間祭祀の内、新年祭・節分祭・春夏大祭・沖津宮現地大祭・夏越祭・海上神幸など主要祭典行事を写真製版で記載し、各説明文並びに毎月の祭典・催しを列記していただきます。その下に、七福・六福を配した日数を、暮盤目型

社頭にて授与致し、例年多くの方が授与希望されていますが、正月三ヶ日間に授与されています。希望者は早めに本社に授与して下さい。  
宗像大社「祭り暦」  
初穂料 一部 三〇〇円  
この「祭り暦」は当社社頭の祭典行事を皆様方に理解していただく為に調整しております。昭和六十一年の「祭り暦」は当社で行われている年間祭祀の内、新年祭・節分祭・春夏大祭・沖津宮現地大祭・夏越祭・海上神幸など主要祭典行事を写真製版で記載し、各説明文並びに毎月の祭典・催しを列記していただきます。その下に、七福・六福を配した日数を、暮盤目型

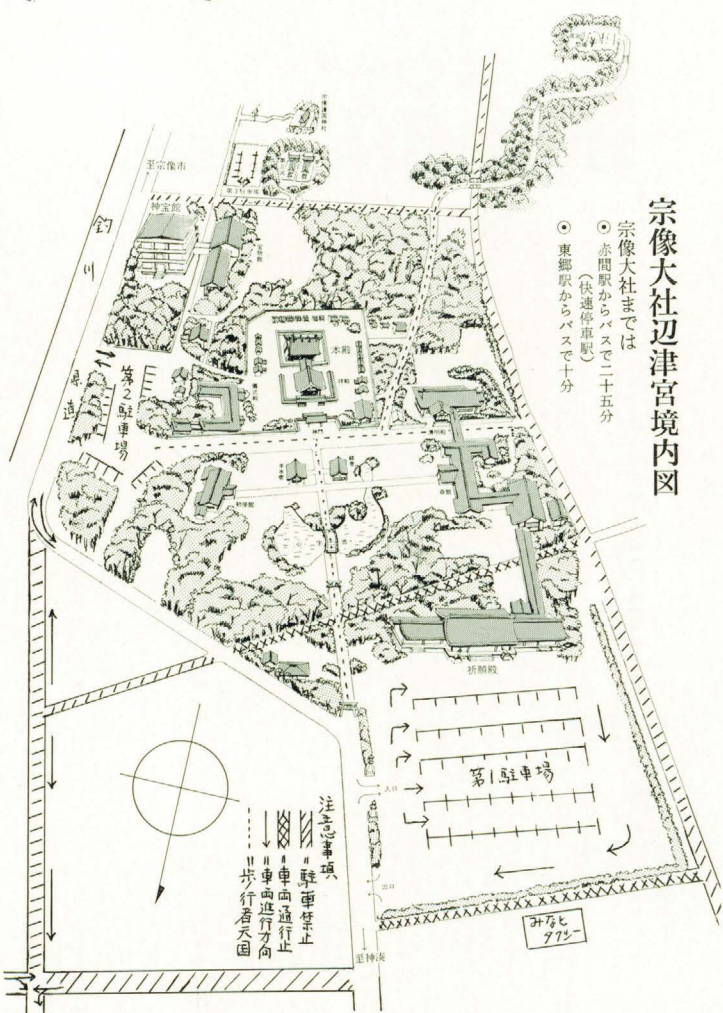
社頭にて授与致し、例年多くの方が授与希望されていますが、正月三ヶ日間に授与されています。希望者は早めに本社に授与して下さい。  
宗像大社「祭り暦」  
初穂料 一部 三〇〇円  
この「祭り暦」は当社社頭の祭典行事を皆様方に理解していただく為に調整しております。昭和六十一年の「祭り暦」は当社で行われている年間祭祀の内、新年祭・節分祭・春夏大祭・沖津宮現地大祭・夏越祭・海上神幸など主要祭典行事を写真製版で記載し、各説明文並びに毎月の祭典・催しを列記していただきます。その下に、七福・六福を配した日数を、暮盤目型

社頭にて授与致し、例年多くの方が授与希望されていますが、正月三ヶ日間に授与されています。希望者は早めに本社に授与して下さい。  
宗像大社「祭り暦」  
初穂料 一部 三〇〇円  
この「祭り暦」は当社社頭の祭典行事を皆様方に理解していただく為に調整しております。昭和六十一年の「祭り暦」は当社で行われている年間祭祀の内、新年祭・節分祭・春夏大祭・沖津宮現地大祭・夏越祭・海上神幸など主要祭典行事を写真製版で記載し、各説明文並びに毎月の祭典・催しを列記していただきます。その下に、七福・六福を配した日数を、暮盤目型

### 宗像大社 正月参拝案内図



### 宗像大社辺津宮境内図



- ◆社頭にて授与致し、例年多くの方が授与希望されていますが、正月三ヶ日間に授与されています。希望者は早めに本社に授与して下さい。
- ◆宗像大社「祭り暦」  
初穂料 一部 三〇〇円
- ◆この「祭り暦」は当社社頭の祭典行事を皆様方に理解していただく為に調整しております。昭和六十一年の「祭り暦」は当社で行われている年間祭祀の内、新年祭・節分祭・春夏大祭・沖津宮現地大祭・夏越祭・海上神幸など主要祭典行事を写真製版で記載し、各説明文並びに毎月の祭典・催しを列記していただきます。その下に、七福・六福を配した日数を、暮盤目型
- ◆社頭にて授与致し、例年多くの方が授与希望されていますが、正月三ヶ日間に授与されています。希望者は早めに本社に授与して下さい。
- ◆宗像大社「祭り暦」  
初穂料 一部 三〇〇円
- ◆この「祭り暦」は当社社頭の祭典行事を皆様方に理解していただく為に調整しております。昭和六十一年の「祭り暦」は当社で行われている年間祭祀の内、新年祭・節分祭・春夏大祭・沖津宮現地大祭・夏越祭・海上神幸など主要祭典行事を写真製版で記載し、各説明文並びに毎月の祭典・催しを列記していただきます。その下に、七福・六福を配した日数を、暮盤目型
- ◆社頭にて授与致し、例年多くの方が授与希望されていますが、正月三ヶ日間に授与されています。希望者は早めに本社に授与して下さい。
- ◆宗像大社「祭り暦」  
初穂料 一部 三〇〇円
- ◆この「祭り暦」は当社社頭の祭典行事を皆様方に理解していただく為に調整しております。昭和六十一年の「祭り暦」は当社で行われている年間祭祀の内、新年祭・節分祭・春夏大祭・沖津宮現地大祭・夏越祭・海上神幸など主要祭典行事を写真製版で記載し、各説明文並びに毎月の祭典・催しを列記していただきます。その下に、七福・六福を配した日数を、暮盤目型